

高木復興大臣ぶら下がり会見録（都知事との会談後）
（平成28年5月11日（水）16:55～17:00 於）東京都庁）

1. 発言要旨

本日、舛添知事とお会いさせていただきまして、復興大臣として御礼を申し上げ、あるいはまたお願いをさせていただいたところでございます。

まず、何をおきまして、大変多くの東京都、そしてまた都下の市区町村から被災地へ多くの職員を派遣していただいておりますので、その方たちが復興のために、正に即戦力として頑張っておりますので、そのことについてお礼を申し上げました。

あわせて、これからもまだ被災地ではマンパワーが必要でございますので、引き続いて職員の派遣をお願いしたところでございます。そしてまた、2020年東京オリ・パラでございますけれども、復興五輪というふうにも位置づけてもおります。そうしたことにおいて、一つには被災地へ、是非聖火リレーを、被災地を走らせていただきたいというお願いをさせていただきました。また、事前キャンプも大いに被災地でやっていただきたいということ、そしてまた競技も、1試合でも多くやっていただきたいという話をさせていただきました。

そうしたことを通じて、正に被災地が元気になるでしょうし、被災地の皆さん方の力にもなるということをお願いをさせていただきました。

あわせて、施設整備において、是非、例えば木材等、東北の被災地のそうしたものを資材としてお使い頂きたいという話もさせていただいたり、あるいは選手村等で東北の食材等も使っていただきたい、それは風評払拭にもなるというようなことをお願いをさせていただきましたところでございます。

知事からも、大変力強い御返答を頂いたというふうに考えております。

これからもしっかりと東京都と連携をしながら、この東京オリ・パラというものが復興に大いに資する、そしてまた、東北の皆さん方の希望になるような、そういうオリ・パラになっていただきたいと思っておりますし、私もしていきたいと思っております。今日はそういう意味で、大変いい会談ができたと思っております。

特に被災地の、木材等の資材を利用するという点においては、森組織委員長、あるいはまた遠藤大臣、そして舛添知事がたびたびいろいろな会談をなさっているようでありますけれども、知事より、これからそういったところについては、復興大臣にも参加いただければいいのではないかというような大変有り難いお話も

ございました。

そういった形で、復興大臣として、正に復興に資するオリンピックになっていけばいいな、繰り返しになりますけれども、そんなようなことを思わせていただいた会談でございまして、いずれにしても本当に有意義な会談ができたというふうに思っております、大変有り難いと思っているところでございます。

私から以上でございます。

2. 質疑応答

(問) まず、特に聖火リレーについて、やはり熱い思いを被災地の方々も、大臣も持っておられるのではないかなと思いますが、改めて聖火リレーがどのように復興につながるのかというところと、またルート選定がとても難しくなると思うんですが、改めてそこから辺どうお考えでしょうか。

(答) 聖火リレーというものは、ある種オリンピック・パラリンピックの象徴でもありますから、世界に日本の姿を発信する、そして東北の復興成った姿というものを発信する、そうしたことで非常に意義があるというふうに思いますし、あわせて、もちろんそうすることによって、被災地の皆さん方が勇気づけられて、さらに復興を頑張っていこうというお気持ちになっていただきたいと思いますので、是非これは実現をしていただきたいと思います。

ルートにつきましては、これから御検討いただくわけですが、私に申し上げますけれども、私の復興大臣としての立場から申し上げますと、できるだけ、いわゆる正に被災された沿岸と言うんでしょうか、三陸、あるいはまた福島の浜通り、そういったところを少しでも走っていただくと大変有り難いなというふうに思いますが、これはいろいろな制約等もあるんでしょうから、しかるべきところで、しかるべくお決めいただきたいと思いますけれども、是非そうした方向で検討していただいて、実現ができれば大変有り難い。復興大臣として、そのように思います。

(問) 先程、知事の方から復興のさらなるスピードアップを求める声がありましたけれども、こちらの受け止めについてお願いします。

(答) 一日も早く、まず住まいの再建、あるいはまた、生活、なりわい、産業、そういったようなことをスピードアップして加速化していかなければならないという思いでございます。復興庁に限らず関係省庁挙げて、それに取り組んでいるところではあります。

おかげさまで、いよいよ今年、来年にかけて、住まいの再建についてはピークを迎えます。オリンピックに関して申し上げますならば、このオリンピックのときには、少なくとも岩手、宮城においては全ての方が恒久的な住まいに入られて、そして家庭団らんの

中でテレビを見ていただける、そうしたことになることは間違いないわけでありますので、そうしたことも含めて、さらに復興の加速化を進めていきたいという思いでございます。

(以 上)